

第646回:梅雨入りの中南海

中国地方(と云っても剣呑な戦狼外交なんぞとは縁も所縁もない、穏やかな人々が暮らす、備後・安藝・周防・長門・石見・出雲など)が5月15日に梅雨入りし、それに遅れること約一か月、関東甲信地方でも6月中旬に梅雨入りした。

剣呑はさておき、となりの大陸にも梅雨はある。但し一部の地方限定、中国語で「黄梅雨」、「霪雨」などと書くが、これが終わると酷暑の夏がやって来る。でも北海道に梅雨がないように、北京やハルビン(北方)、新疆ウイグル(内陸部)などに梅雨はない。梅雨前線の影響を受けるのは、主として長江以南の沿海部だから、青島(山東省)に梅雨はなく、上海や蘇州(江蘇省)あたりが北限のようだ。

今年の上海は東京より早く6月10日に梅雨入りしたが、首都北京の中南海あたりでは梅雨がない代わりに、魍魅魍魎が跳梁跋扈する政治の季節に入っている。

2012年秋に発足した習近平政権。これまでの江沢民、胡錦濤といった先達の颯に倣えば、習近平主席は22年秋に引退するのが世の定めのはず。

従って、本来なら今頃は(例えば)次期党総書記には「国家副主席」、次期首相には「筆頭副首相」などの“訓練ポスト”を用意して、そこで候補者たちの腕を磨かせ、後継体制を徐々に固めたいところだが、習主席は前例も慣行もなんのその、一向に跡継者を固める動きを見せしておらず、続投に意欲満々。これを敢然と諫める廉直の士はおらず、3連投は確実な雲行き。

習主席は、これから始まる政治の季節、即ち節目の7月1日「共産党創設100周年」、8月1日「建軍節」、10月1日「国慶節」、そして今秋(10~11月頃)の党「6中総会」を、満場の拍手喝采を浴びながら乗り切り、長期政権の足場を固めたい考えのようだ。

中国がいま克服すべき課題は、安全保障上の諸問題(領土問題、少数民族問題など)から、金融リスクに至るまで多岐にわたっているが、「内圧には弱い外圧には強い」中国において、習主席は内外に向けて、「和の精神ではなく」、「闘争の精神」を示すことが肝要であると考えている。

国民には「中国が直面する闘争は、短期的なものではなく、長期間続く」と語りかけ、少なくとも中華人民共和国が建国100周年を迎える49年頃までは続くから、それに対応可能な長期政権が必要、ざっとこんなシナリオで長期政権の確立を内外に宣言する考えと見て間違いないだろう。

政治の季節の第一陣を切る7月1日の党創立100周年行事では、軍事パレードこそ行われぬものの、北京市上空を軍事ヘリコプターの編隊が「100」の形で飛行し、国威発揚をアピールするようだ。

創立100周年の公演イベントでは、建国の指導者・毛沢東主席と、習近平総書記(国家主席)の二人だけは別格の存在として演出するとか。毛習の両御大にスポットライトを当てるためには、技術上の手法として、周辺の明かりを少し落とす必要がある。

そのため僭越乍ら、ポスト毛沢東時代を築き上げた鄧小平や彼が後継指名した胡耀邦・江沢民・胡錦濤は、十把一絡げで「過渡期の指導者」として抑制気味に紹介されるようだ。全ては来秋の第20回党大会で、前例破りの「総書記3期目入り」が狙いだ。そのため党指導部は習氏のステイタスを、これまで絶対的存在であった毛沢東と「同格」だと内外に印象付ける思惑のようだ。

最近の華字誌に、こんな記事が載っていた。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

中国国家主席習近平在去年第 19 屆中央委員會第五次全體會議(五中全會)之後、被冠上了「舵手」的封号、引起了美國情報部門關注。因為這個称号是毛沢東時代最高的称号、有分析人士認為、習近平這個舉動很明顯是想要成為毛沢東第二。

昨年 10 月の 5 中全會以降、習近平主席が『舵取り』の称号で呼ばれるようになったのは、第 2 の毛沢東を生み出そうとする動きであると、米諜報筋は分析している。

中国には毛沢東主席専用の特別呼称がある。それが「舵手(=舵取り)」であり、「最高指示(=毛主席の指示)」だ。むかし上海のナイトクラブでホステスを喜ばせる“ピン芸”として「最高指示!」、「為人民服務」、「大海航行靠舵手」などを連呼する酔客はいたけれど、まさか真面目に使う時代が来るとは。

そんな中、“出前アプリ”と呼んでは失礼なほどの時価総額【直近 1.84 兆香港ドル(HK \$1.0=14 円)]を誇る美团(03690/HK)の王興 CEO(42 歳)が 5 月 6 日、ネットに書き込んだ唐詩が話題沸騰中だ。

竹帛煙銷帝業虛、関河空鎖祖龍居、坑灰未冷山東乱、劉項原来不讀書

竹帛の煙消え帝業虚し、関河空しく鎖ざす祖龍の居、

坑灰未だ冷えざるに山東乱る、劉項元来書を読まず

(拙訳) 焚書の煙が消え、始皇帝の覇業は見る影もない。函谷関と黄河は阿房宮を空しく閉ざす。焚書の熱が冷めない中、山東が乱れ始めた。所詮項羽も劉邦も無学の輩。

これは晩唐・章碣の漢詩「焚書坑」そのもので、戯作者が作ったパロディではない。歴代皇帝の無知蒙昧さ故の愚策を揶揄した内容だが、「現代皇帝への当てつけを意図した政権批判」だとネチズンが騒ぐ証拠はどこにも見当たらない。でも「時の人」がこんな詩を投稿したら、いかな温厚な為政者でも怒るだろう。

出前アプリと旅行の予約代理事業が順調に伸びている同社だが、独占禁止法の取締当局から「取引先に対し、競合他社とは取引しないよう強要する行為」の疑いで何度も調査を受けており、面と向かって当局に歯向かえない苛立ちを「焚書坑」に託したのかも。

文革中の迫害で中学すら卒業できず、「書を読む機会」を失った習主席は、後に政治的配慮で「清華大学卒、法学博士」の肩書をゲットしたが、彼が強い学歴コンプレックスを持っているのは誰もが知る事実だ。

そんな中、ホントの清華大卒で、怖いもの知らずの王興氏が、執拗な当局の指導にブチ切れた可能性がないとは云えない。項羽も劉邦も、始皇帝も所詮は無学の徒、況んや〇〇〇に於いてをや、と来たか。

もしそうだとすれば、彼の忿懣は理解する。でも成長著しい中国資本市場のリーダーである以上、投資家への配慮を忘れては困る。この銘柄は着実に伸びているが、最近の株価乱高下はいただけない。

中国当局は、これから秋に掛けて、「政治の季節」を乗り切るべく、全力で政治・社会・経済・金融方面の強化を図るから、金融や相場も安定局面入りするだろう、でも暴発事故にはくれぐれもご注意を。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

2021 年(令和 3 年)6 月 16 日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱 UFJ 信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007 年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3

ご投資にあたっての注意事項

外国証券等について

・外国証券等は、日本国内の取引所に上場されている銘柄や日本国内で募集または売出しがあった銘柄等の場合を除き、日本国の金融商品取引法に基づく企業内容等の開示が行われておりません。

手数料等およびリスクについて

①国内株式等の手数料等およびリスクについて

・国内株式等の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2650% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 1.2650% (税込み) に相当する額が 3,300 円 (税込み) に満たない場合は 3,300 円 (税込み)、売却約定代金が 3,300 円未満の場合は別途、当社が定めた方法により算出した金額をお支払いいただきます。国内株式等を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式等は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②外国株式等の手数料等およびリスクについて

・委託取引については、売買金額 (現地における約定代金) に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 1.1000% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・国内店頭取引については、お客さまに提示する売り・買い店頭取引価格は、直近の外国金融商品市場等における取引価格等を基準に合理的かつ適正な方法で基準価格を算出し、基準価格と売り・買い店頭取引価格との差がそれぞれ原則として 2.50% となるように設定したものです。

・外国株式等は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

③債券の手数料等およびリスクについて

・非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスクおよび為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

④投資信託の手数料等およびリスクについて

・投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

⑤株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

・株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0880% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.400% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 4.400% (税込み) に相当する額が 2,750 円 (税込み) に満たない場合は 2,750 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をご覧ください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。